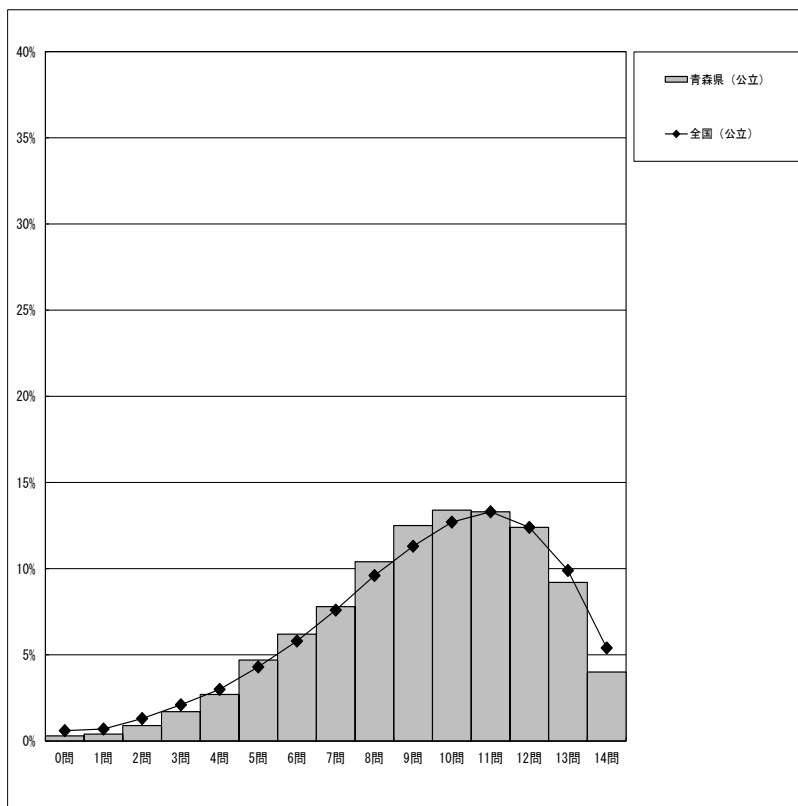


## Ⅱ 小学校

### Ⅰ 正答率

#### ①国語

・正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)・正答数集計値



正答数	青森県(%)	全国(%)
14問	4.0	5.4
13問	9.2	9.9
12問	12.4	12.4
11問	13.3	13.3
10問	13.4	12.7
9問	12.5	11.3
8問	10.4	9.6
7問	7.8	7.6
6問	6.2	5.8
5問	4.7	4.3
4問	2.7	3.0
3問	1.7	2.1
2問	0.9	1.3
1問	0.4	0.7
0問	0.3	0.6

・四分位

	青森県 (公立)	全国 (公立)
第3四分位	12.0問	12.0問
第2四分位	10.0問	10.0問
第1四分位	8.0問	7.0問

#### □正答数分布グラフ・正答数集計値

- ・正答数13問及び14問の割合は、全国を下回っている。
- ・正答率5問～10問の割合は、全国を上回っている。
- ・正答数4問以下の割合は、いずれも全国を下回っている。

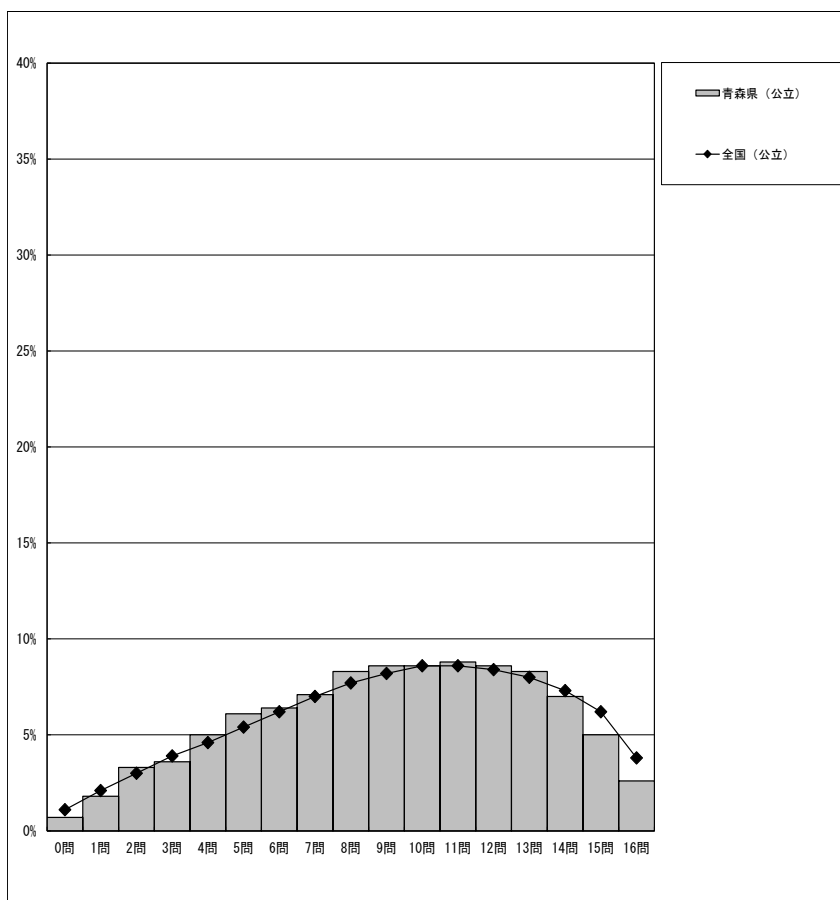
#### □四分位表

- ・第1四分位数は全国7.0問に対し、青森県は8.0問と、全国より1.0問高い状況にある。
- ・第2四分位、第3四分位とも全国と同じである。

○本県は、全国に比べて正答数0問～4問の割合が少なく、正答数5問～10問の割合が高いことから、中位層への学習指導が充実していることがうかがえる。今後は、上位層の児童の学習指導をさらに充実していく必要がある。

## ②算数

・正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)・正答数集計値



正答数	青森県%	全国%
16問	2.6	3.8
15問	5.0	6.2
14問	7.0	7.3
13問	8.3	8.0
12問	8.6	8.4
11問	8.8	8.6
10問	8.6	8.6
9問	8.6	8.2
8問	8.3	7.7
7問	7.1	7.0
6問	6.4	6.2
5問	6.1	5.4
4問	5.0	4.6
3問	3.6	3.9
2問	3.3	3.0
1問	1.8	2.1
0問	0.7	1.1

・四分位

	青森県 (公立)	全国 (公立)
第3四分位	12.0問	13.0問
第2四分位	9.0問	10.0問
第1四分位	6.0問	6.0問

### □正答数分布グラフ・正答数集計値

- ・正答数4問～9問の割合は、全国を上回っている。
- ・正答数10問の割合は、全国と同じ。
- ・正答数11問～13問の割合は、全国を上回っている。
- ・正答数14問～16問の割合が全国を下回っている。

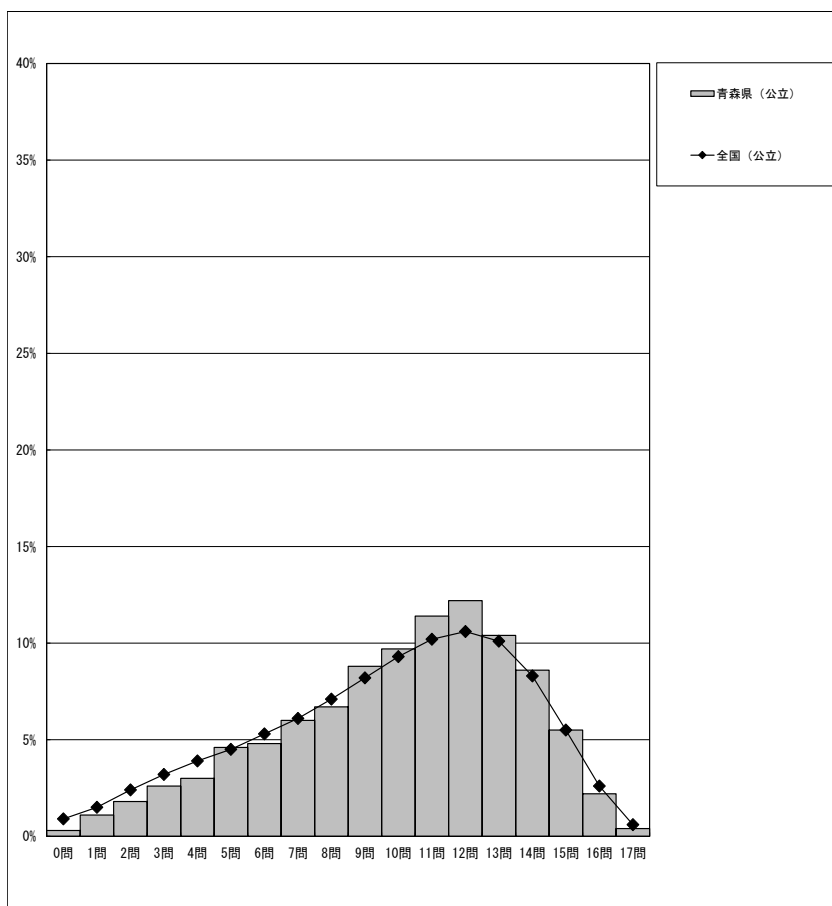
### □四分位表

- ・中央値を示す第2四分位は、全国10.0問に対し、青森県9.0問と1.0問低い状況である。
- ・第3四分位も全国13.0問に対し、青森県12.0問と1.0問低い状況である。

○正答数10問～13問の割合が多いことから、中間層への学習内容への理解を深める指導が行われていることがうかがえる。低位層、上位層への指導の充実のためには、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をさらに進める必要がある。

### ③理科

・正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)・正答数集計値



正答数	青森県%	全国%
17問	0.4	0.6
16問	2.2	2.6
15問	5.5	5.5
14問	8.6	8.3
13問	10.4	10.1
12問	12.2	10.6
11問	11.4	10.2
10問	9.7	9.3
9問	8.8	8.2
8問	6.7	7.1
7問	6.0	6.1
6問	4.8	5.3
5問	4.6	4.5
4問	3.0	3.9
3問	2.6	3.2
2問	1.8	2.4
1問	1.1	1.5
0問	0.3	0.9

・四分位

	青森県 (公立)	全国 (公立)
第3四分位	13.0問	13.0問
第2四分位	11.0問	10.0問
第1四分位	8.0問	7.0問

#### □正答率分布グラフ・正答数集計値

- ・正答数9問～14問の割合が、いずれも全国を上回っている。
- ・正答数8問以下の割合は、正答数5問を除いて、いずれも全国を下回っている。
- ・正答数11問及び12問の割合が、全国よりも1.0ポイント以上上回っている。

#### □四分位表

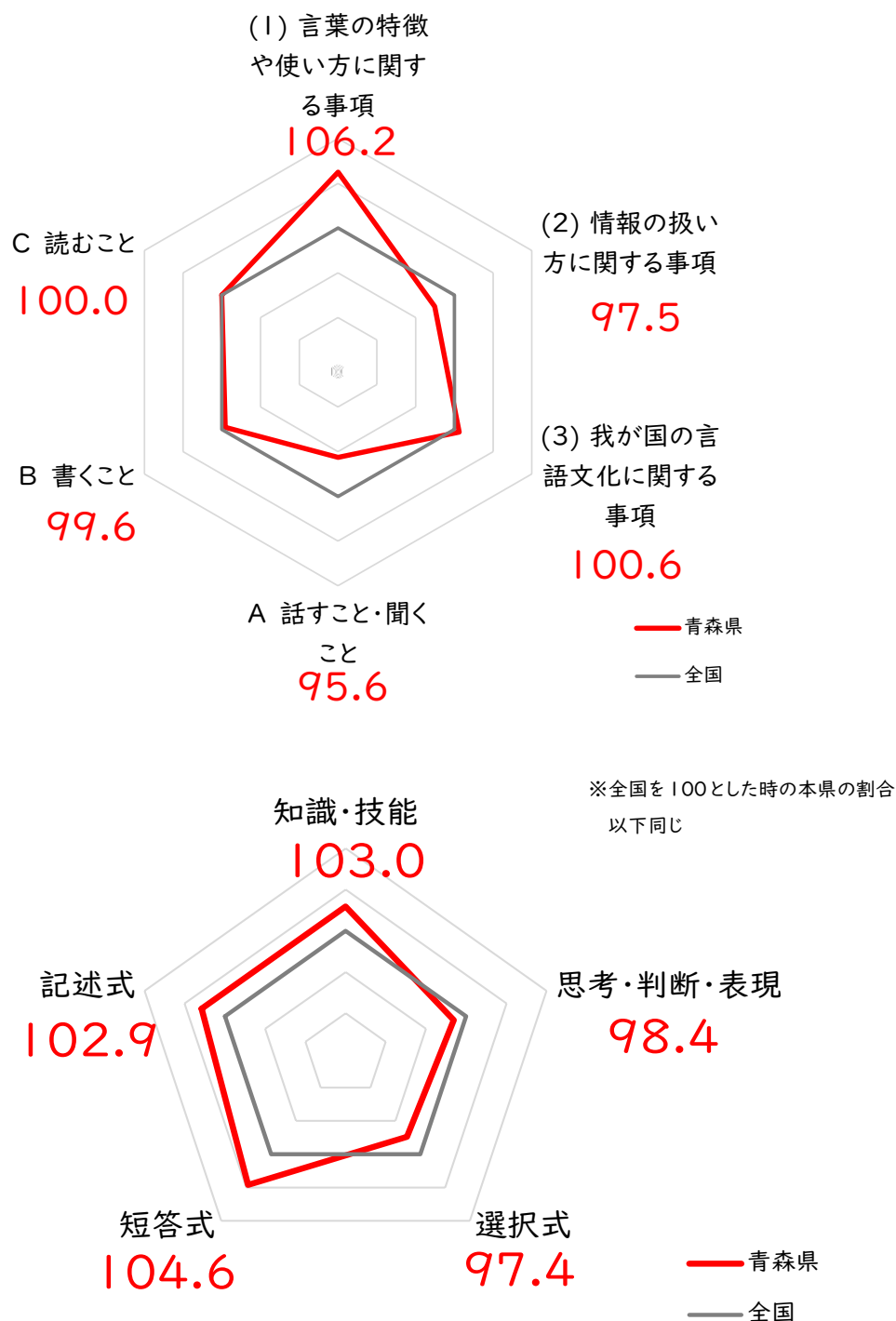
- ・第1四分位、第2四分位が、いずれも全国より1.0問高い状況である。
- ・第3四分位が全国と同じ状況である。

○本県は、中位層から上位層にかけての正答数が全国を上回っていることから、低位層から中位層にかけての学習指導の充実が成果として表れていると評価できる。今後も、上位層の児童の学習状況に留意しながら、低位層を中心とした児童への学習指導の充実を継続していくことが必要である。

## 2 領域別の正答率

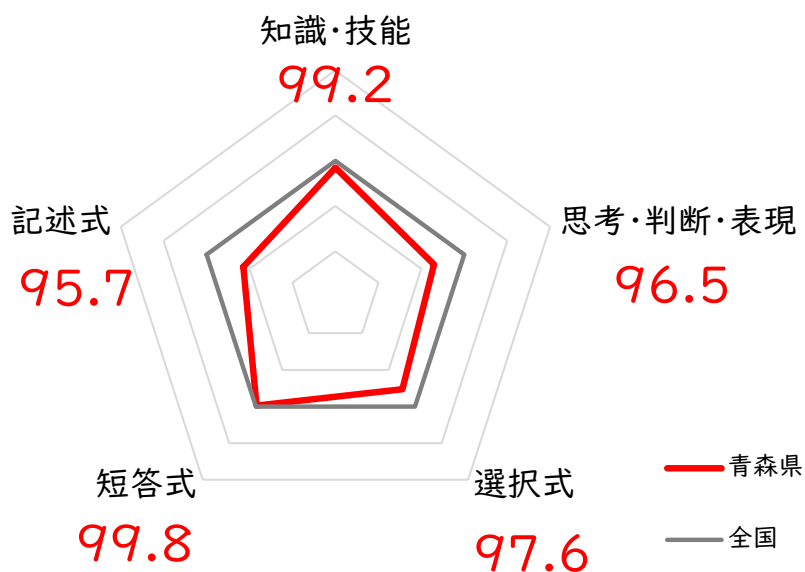
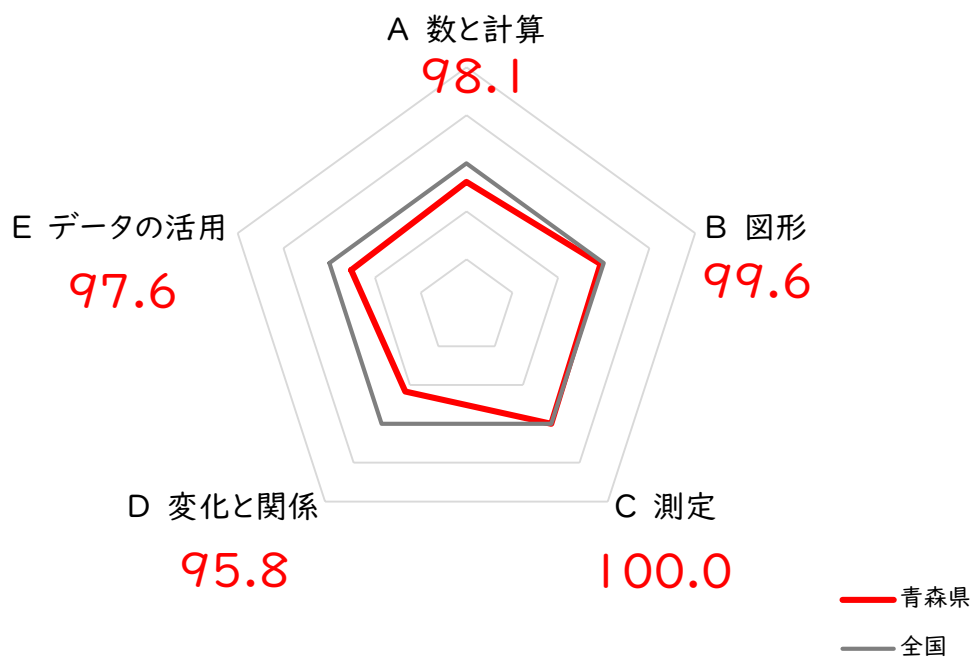
### ①学習指導要領の内容及び評価の観点、問題形式

#### (ア) 国語



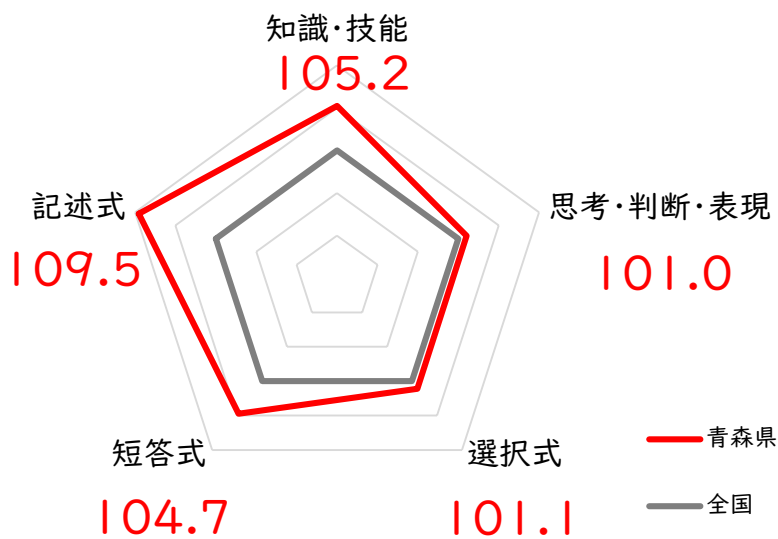
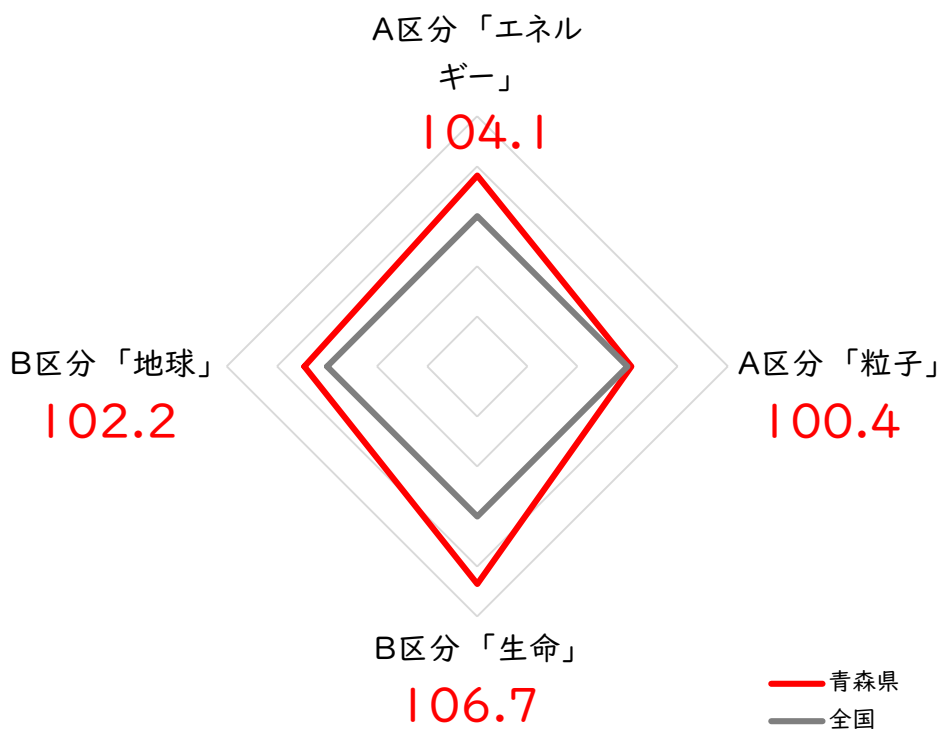
・内容別では、「A 話すこと・聞くこと」は全国を下回っている。「C 読むこと」は全国と同じである。  
 (1)「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国を大きく上回っている。一方で、(2)「情報の扱い方に関する事項」は全国を下回っている。  
 ・評価の観点別では、「知識・技能」の観点で、全国を上回っている。一方で、「思考・判断・表現」の観点で、全国を下回っている。  
 ・問題形式別では、「記述式」「短答式」は、全国を上回っている。一方で、「選択式」は、全国を下回っている。

(イ) 算数



・領域別では、「C 測定」が全国と同じ、「A 数と計算」「B 図形」「D 変化と関係」「E データの活用」が全国を下回っている。  
・評価の観点別では、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2観点ともに全国を下回っている。  
・問題形式別では、「記述式」「短答式」「選択式」ともに全国を下回っている。

(ウ)理科



- ・領域別では、全領域において全国を上回っており、特に「生命」領域が全国を大きく上回っている。
- ・評価の観点別では、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2観点ともに全国を上回っている。
- ・問題形式別では、いずれの形式においても全国を上回っており、特に「記述式」が全国を大きく上回っている。

【国語】

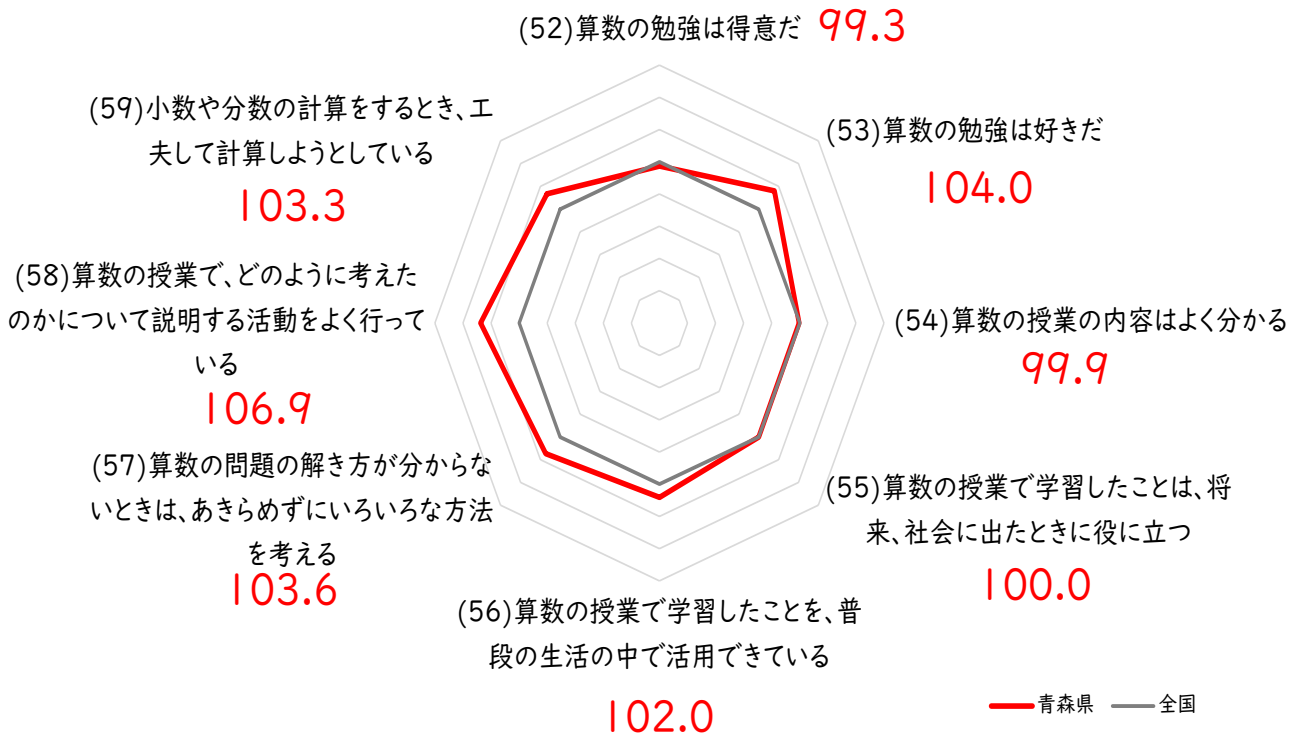


【国語】

- ・本県の児童は、全8項目の全てについて全国を上回っている。特に、(45)「国語の勉強は好きだ」と肯定的に受け止めている児童の割合が大きく上回っている。
- ・国語の授業における教師の関わりに関する質問(48)(49)も全国を上回っている。
- ・(50)「B 書くこと」、(51)「C 読むこと」(説明的な文章)に関する質問も全国を上回っている。

○教師が主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組んでいる様子が見えてくる。

## 【算数】



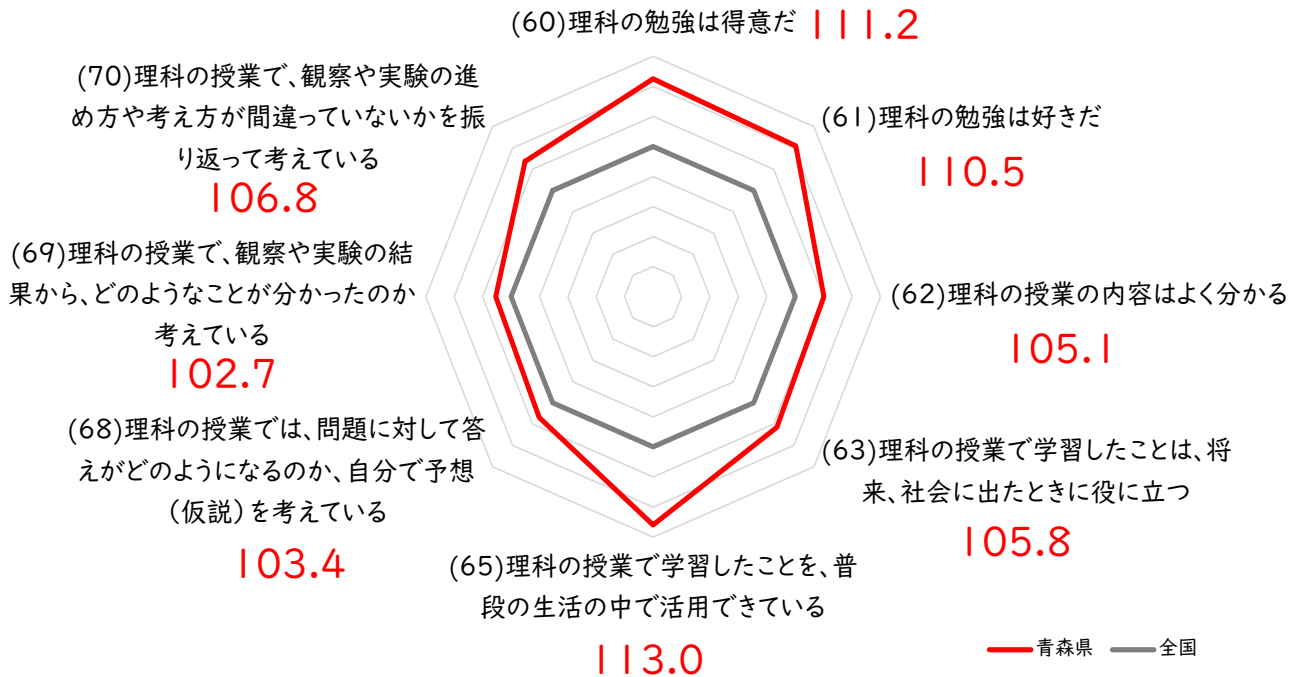
### 【算数】

- ・(53)「算数の勉強が好きだ」について肯定的に受け止めている児童の割合は全国を上回っているが、(52)「算数の勉強が得意だ」(54)「算数の授業の内容はよく分かる」について肯定的に受け止めている児童の割合は全国を下回っている。
- ・(58)「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている」について肯定的に受け止めている児童の割合は全国を上回っている。
- ・(57)「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」について肯定的に受け止めている児童の割合は全国を上回っており、調査問題においても無解答率の割合が全国に比べ、平均で1.0%程度下回っている。

○「主体的な学び」「対話的な学び」の視点を大切にした授業づくりが行われていると考えられる。今後は、「単に知識を増やすだけでなく、情報を整理・精査し、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、問題を見つけて解決策を考えたり、創造的に思考したりする」ような「深い学び」の視点を大切にした授業づくりについても積極的に取り組んでいく必要がある。



## 【理科】

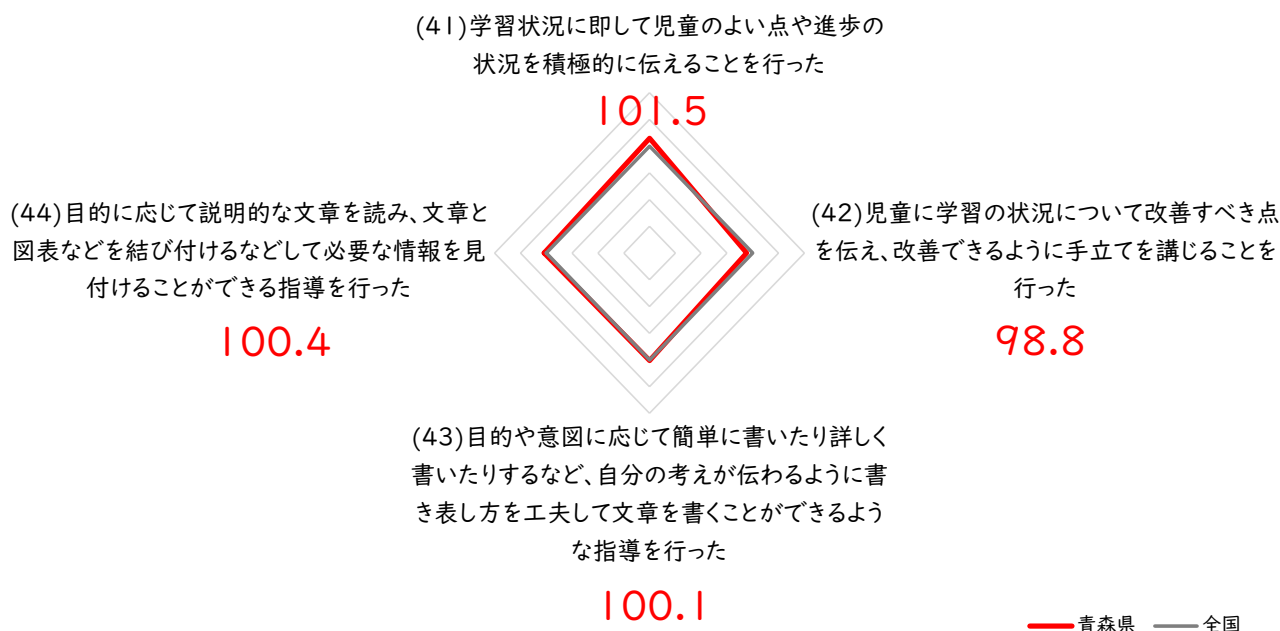


### 【理科】

・全8項目の全てについて全国を上回っている。特に、(60)「理科の勉強は得意だ」、(61)「理科の勉強は好きだ」、(65)「理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できている」について、肯定的に受け止めている児童の割合が全国を大きく上回っている。

○理科の授業が、児童の自然現象に対する興味・関心に基づき、日常生活と関連させながら、「深い学び」の視点を大切にされた授業が展開されている状況にあると考えられる。

【国語】

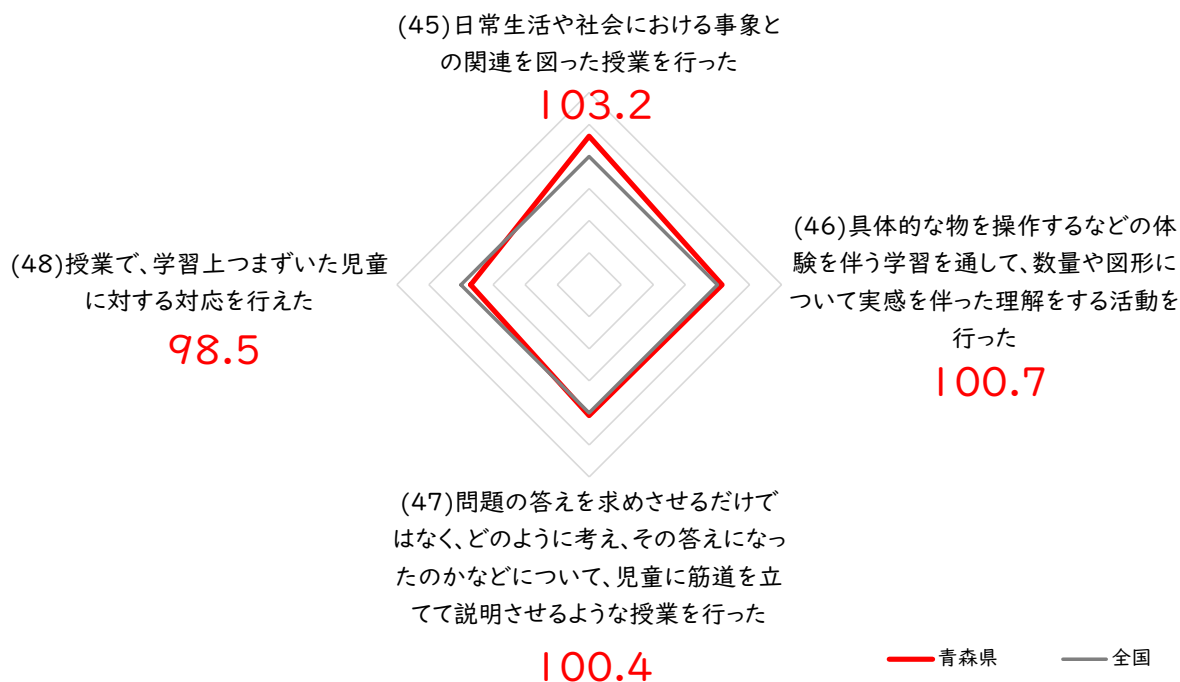


【国語】

- ・(41)「学習状況に即して児童のよい点や進歩の状況を積極的に伝えることを行った」ことについて、肯定的に受け止めている学校は、全国を上回っている。
- ・(42)「児童に学習の状況について改善すべき点を伝え、改善できるように手立てを講じることを行った」における学校質問調査は全国を下回っているが、児童質問調査では上回っている。

○概ね全国と同程度である。

## 【算数】

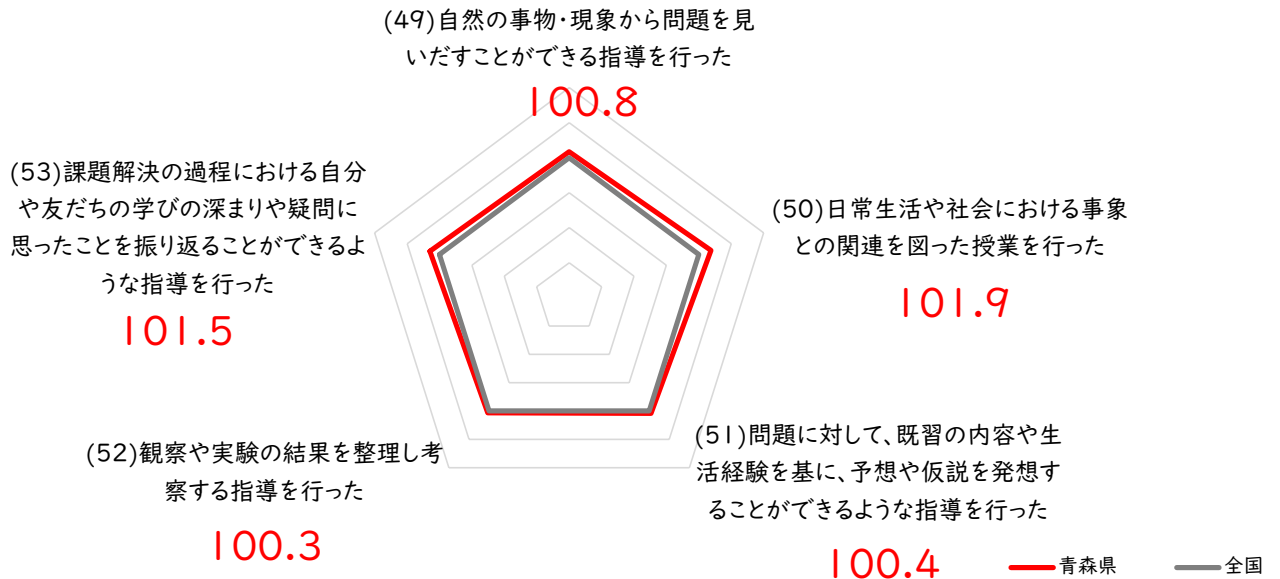


### 【算数】

- ・(45)「日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行った」ことについて、肯定的に受け止めている学校は、全国を上回っている。
- ・(48)「授業で、学習上つまずいた児童に対する対応を行えた」について、肯定的に受け止めている学校の割合が全国を下回っている状況にある。

○概ね全国と同程度である。児童のつまずきを予測して適切なサポートを行うことは、授業者の教材・教具、授業内容・指導方法等の工夫につながることから、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に今後も取り組む必要がある。

### 【理科】



#### 【理科】

・全5項目の全てについて、肯定的に受け止めている学校の割合が全国を上回っている。

○(51)「問題に対して、既習の内容や生活経験を基に、予想や仮説を発想することができるような指導を行った」、(52)「観察や実験の結果を整理し考察する指導を行った」の割合と、その項目に対応する児童質問調査の結果が、他の項目よりやや低い状況であることから、これらの項目に重点を置いた指導の充実が望まれる。

## 5 指導改善のポイント

### ①国語

大問1ー 【思考力、判断力、表現力等】

#### A 話すこと・聞くこと

◆目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することに課題がある。

◇伝え合う内容を検討する際、目的や意図に応じて聞くことを具体的に考え、関係する材料を整理する。

目的や意図に応じて、自分が知っていることや予想したこと、疑問に感じていることなどを内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりできるよう指導することが重要である。また、知りたいことを聞くという目的に加え、相手の考えを予想したり、予想した答えと関連して聞きたいことを考えたりするなど、聞くときの場面や状況を意識することも大切である。

大問3三(1) 【思考力、判断力、表現力等】

#### C 読むこと

◆目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。

◇目的に応じて、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりする。

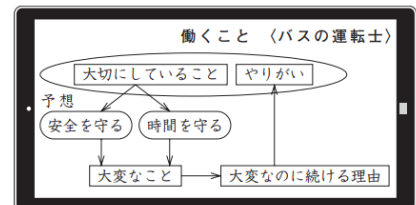
必要な情報は目的に応じて変わるため、読む目的を明確にすることが重要である。その上で、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしたり、文章と図表などの関係を捉えて読んだりすることが必要である。その際、文章と資料(文章、図表等)を丸や四角で囲んだり、線などでつないだりして、どの部分と結び付くのかを明らかにしながら読むことや、他者との対話を取り入れるなどして、児童自身が読む目的に立ち返り、必要な情報を再確認して資料を読み直すことで、児童は内容についてより深く理解したり解釈したりすることができるようになると思われる。

関連して

#### 【知識及び技能】情報の扱いに関する事項

◆情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題がある。

◇目的や意図に沿って、線や囲みなど図示することによって自分なりに情報を整理する。

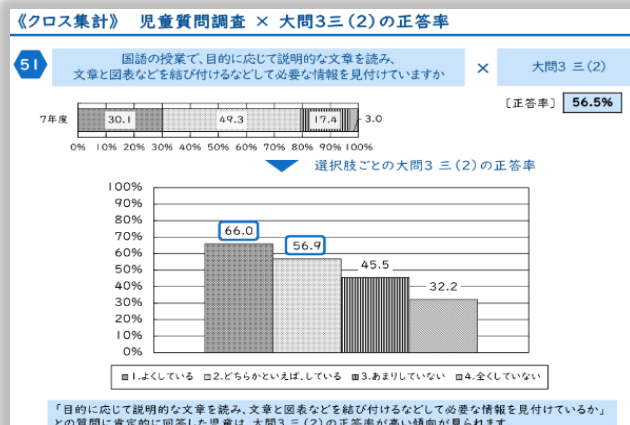


【話し合いの記録】

〔知識及び技能〕は、〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項と関連を図り、児童が体験的に身に付けていけるように学習の展開を工夫することが重要である。つまり、情報に関する事項は「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」の指導と関連させ、年間を通じて複数回、意図的に指導することが大切である。例えば、目的や意図を意識し、自分なりに情報を整理する学習活動を設定するとともに、整理の仕方を友達と共有し、よりよい整理の仕方に気付く機会を設けるなどの工夫が考えられる。

児童質問調査との関係

児童が読む目的を意識することや自らの学びを自覚することが大切だと推察される。



## ②算数

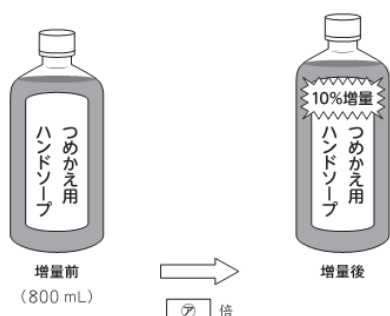
### 分析のポイント(課題)

- ・「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことに課題がある。(正答率 青森県36.2 全国40.9)

### 具体的な設問 [思考・判断・表現]

- ・大問4(4) 10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ。

(4) 家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。  
 広告には、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800 mLです。



増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。上のアにあてはまる数を、下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

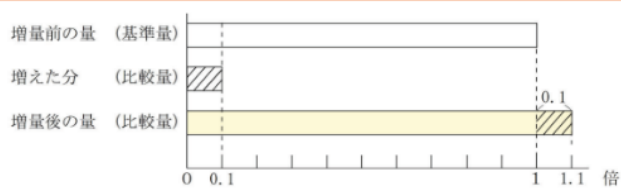
- 1 0.1
- 2 1.1
- 3 10
- 4 110

### ○解答の分析

正答 1.1倍(正答率36.2%)

誤答例 ①0.1倍(43.1%) ②10倍(15.2%)

- ・①のように解答した児童は、「10%増量」について、百分率で表された10%を0.1と捉えることはできているが、「増量後の量」が「増量前の量」の110%になることを捉えることはできていないと考えられる。又は、「増量後の量」が「増量前の量」の1.1倍と捉えることができていないと考えられる。
- ・②のように解答した児童は、「10%増量」について、「増量後の量」は「増量前の量」の10倍と捉えていると考えられる。



### ○指導改善のポイント

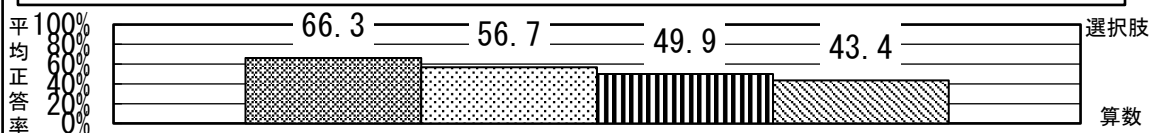
- ・基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるために、言葉や図、式を関連付けながら数量の関係を考察できるようにすることが大切である。
- ・例えば、「10%増量」と書かれている増量後のハンドソープの量が、増量前のハンドソープの量の何倍になっているのかを考え、説明する活動が考えられる。
- ・上記右上の図のように、基準量を100%として10%や110%に当たる比較量を表したり、基準量を1として0.1や1.1に当たる比較量を表したりすることで、「10%増量」について「増えた分」と「増量後の量」の違いを明らかにして図と式や言葉を用いて説明する活動を行い、数量の関係を捉えることができるようにすることが大切である。

クロス集計 児童質問調査×算数正答率

学校質問調査(58)

算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。

☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない



この質問に肯定的に回答した児童の方が、算数全体の正答率が高い。

③理科

調査結果の概況(内容別の正答率)

平均正答率		青森県 (公立)	全国 (公立)	全国比	
学習指導要 領の区分・ 領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	48.6	46.7	+1.9
		「粒子」を柱とする領域	51.6	51.4	+0.2
	B区分	「生命」を柱とする領域	55.5	52.0	+3.5
		「地球」を柱とする領域	68.2	66.7	+1.5
評価の観点	知識・技能	58.2	55.3	+2.9	
	思考・判断・表現	59.3	58.7	+0.6	
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-	
問題形式	選択式	55.3	54.7	+0.6	
	短答式	73.0	69.7	+3.3	
	記述式	49.5	45.2	+4.3	

A・B両区分とも全国を上回っているが、「エネルギー」を柱とする領域は平均正答率5割を下回っている。  
※前回調査(令和4年度)も同傾向。

平均正答率は約5割で、全国に比べて、誰もが理解できるように、自分の考えを正しく表現できている児童の割合が高い。

「エネルギー」を柱とする領域における課題のある点		青森	全国
【大問2】	(1) 電気を通す物と磁石に引き付けられる物に関する知識を身に付けることに課題がある。知識・技能	9.7	10.6
	(2) 電気が通る回路のつくり方に関して理解し、表現することに課題がある。思考・判断・表現	39.2	42.9

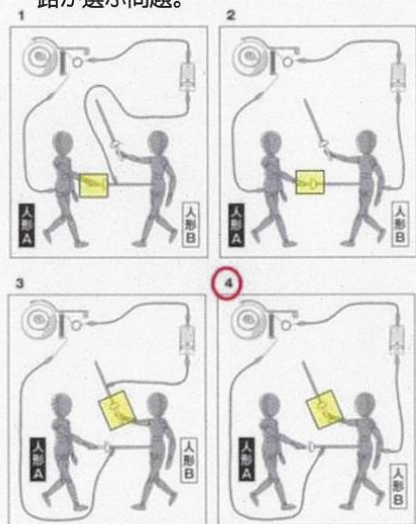
(1)アルミニウム、鉄、銅の性質について、次の中から当てはまる番号を選ぶ問題。

※選択肢 略

学習指導に  
当たって

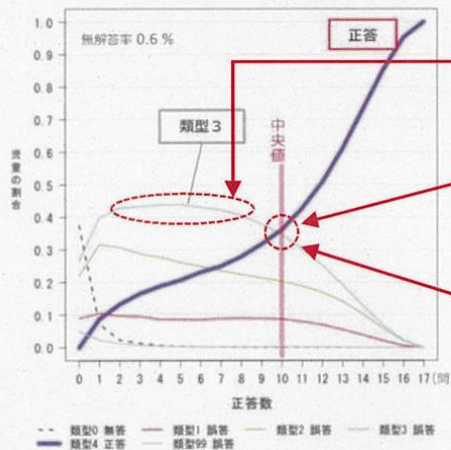
「磁石の性質」と「電気の通り道」では、同じ対象物を用いて学習することが多い。学習した知識を身の回りで見られる事物・現象と関連付けたり、様々な内容で習得した知識を整理したりして、物質の性質に関する理解を深めることが大切である。

(2)「人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、かね(ベル)が鳴る」のは、どのような回路か選ぶ問題。



黄色の部分が絶縁部分。本県の回答類型は、「1」が7.7%、「2」が20.8%、「3」が31.7%、「4」が39.2%である。

【大問2】(2) 正答数別類型割合グラフ



- 「正答数の少ない児童」では、約4割が「類型3」である。
- 「平均的な正答数の児童」においても、正答の割合は4割弱である。
- 「平均的な正答数の児童」で、正答とほぼ同じ割合で「類型3」を回答している。

学習指導に  
当たって

回路中にある「電気を通さない持ち手」を見いだすことができていると考えられる。ものづくりの活動では、解決したい問題を見いだすことや、学習を通して得た知識を活用して、理解を深めることが大切である。実験の計画を振り返ったり、修正したりする活動の充実を図ることが重要である。

エネルギー領域の学習指導の改善のポイント

○「ものづくり」と「言葉や図での表現」との往還でより深い理解

ものづくりでできた装置を言葉や図で表現したり、設定した目的を達成できているかを振り返り、修正したりする活動の充実を図ることで、学んだことの意義を実感できるようにすることが重要である。